

Ⅱ 教科に関する調査結果の概要

1 調査結果の概要

(1) 平成 27 年度[12 月調査]の結果

- 平成 27 年度[12 月調査]の到達状況を見ると、県で設定した到達基準(P2〔注1〕参照)に対して全ての学年・教科において「おおむね達成」の基準を上回っており、本県児童生徒の学習内容の習得状況は、おおむね良好であった。
- 中学 1 年生と中学 2 年生の英語が、「十分達成」の基準を上回っており、学習内容が十分習得されていた。

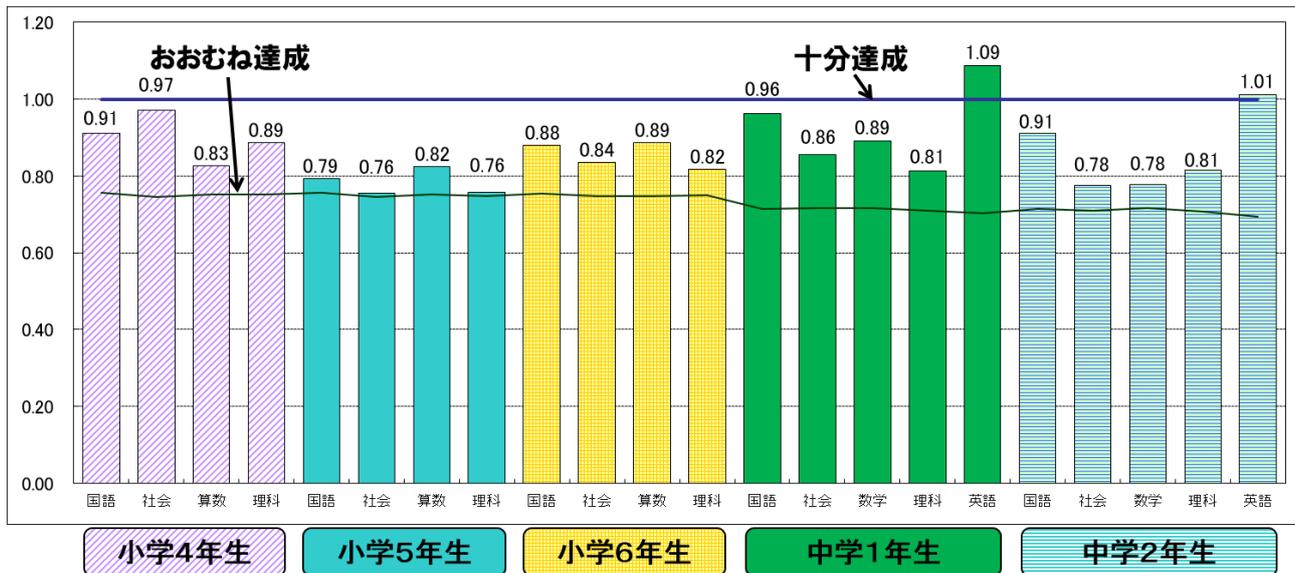
〔表 1〕各学年・教科の到達状況

教科	平成 27 年度[12 月調査]の到達状況				(参考)平成 26 年度[12 月調査]の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小4国語	74.7	81.9	61.9	0.91	67.6	78.9	58.9	0.86
小4社会	76.2	78.4	58.4	0.97	75.2	79.8	59.8	0.94
小4算数	66.8	80.8	60.8	0.83	71.9	81.2	61.2	0.89
小4理科	71.2	80.3	60.3	0.89	68.6	81.5	61.5	0.84
小5国語	64.9	81.9	61.9	0.79	73.4	79.2	59.2	0.93
小5社会	59.2	78.4	58.4	0.76	68.2	80.0	60.0	0.85
小5算数	66.3	80.4	60.4	0.82	66.8	80.6	60.6	0.83
小5理科	60.3	79.5	59.5	0.76	65.8	79.8	59.8	0.82
小6国語	71.3	81.0	61.0	0.88	72.9	79.3	59.3	0.92
小6社会	66.3	79.4	59.4	0.84	64.4	79.5	59.5	0.81
小6算数	70.3	79.3	59.3	0.89	68.8	79.4	59.4	0.87
小6理科	65.1	79.7	59.7	0.82	70.8	79.7	59.7	0.89
中1国語	67.5	70.2	50.2	0.96	72.7	71.0	51.0	※1 1.02
中1社会	60.2	70.3	50.3	0.86	46.9	69.5	49.5	0.67
中1数学	62.9	70.6	50.6	0.89	63.7	70.5	50.5	0.90
中1理科	56.0	68.8	48.8	0.81	54.2	70.1	50.1	0.77
中1英語	73.1	67.2	47.2	※1 1.09	74.3	67.0	47.0	※1 1.11
中2国語	63.6	69.8	49.8	0.91	69.7	69.7	49.7	1.00
中2社会	53.4	68.8	48.8	0.78	44.3	69.3	49.3	0.64
中2数学	54.7	70.3	50.3	0.78	56.2	70.0	50.0	0.80
中2理科	55.9	68.6	48.6	0.81	45.6	69.7	49.7	0.65
中2英語	66.2	65.4	45.4	※1 1.01	59.3	65.6	45.6	0.90

※1 網掛けは、「十分達成」に対する割合が 1.00 を上回っている教科を示している。

[グラフ1] 平成27年度[12月調査]各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する割合

(十分達成=1.00)



(2) 平成27年度[4月調査]との比較

- 「十分達成」に対する割合が、平成27年度[4月調査]の割合を上回ったものは、9教科中5教科であった。

[表2] 国語、算数・数学、理科における各学年・教科の到達状況(平成27年度[4月調査]との比較)

教科	平成27年度[12月調査]の到達状況				平成27年度[4月調査]の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小5国語	64.9	81.9	61.9	※ ² ↑ 0.79	62.3	80.5	60.5	0.77
小5算数	66.3	80.4	60.4	0.82	65.2	79.3	59.3	0.82
小6国語	71.3	81.0	61.0	※ ² ↑ 0.88	※ ³ 66.9	※ ⁴ 78.9	※ ⁴ 58.9	0.85
小6算数	70.3	79.3	59.3	※ ² ↑ 0.89	※ ³ 61.3	※ ⁴ 77.2	※ ⁴ 57.2	0.79
小6理科	65.1	79.7	59.7	※ ² ↑ 0.82	60.4	78.5	58.5	0.77
中1国語	67.5	70.2	50.2	※ ² ↑ 0.96	73.1	81.3	61.3	0.90
中1数学	62.9	70.6	50.6	0.89	71.2	79.1	59.1	0.90
中2国語	63.6	69.8	49.8	0.91	67.8	71.6	51.6	0.95
中2数学	54.7	70.3	50.3	0.78	57.2	69.7	49.7	0.82

平成27年度[4月調査]においては、該当学年の前学年までの内容(中学1年生は、小学6年生までの内容)を、また、平成27年度[12月調査]においては、各教科が定める出題範囲までの内容を調査対象としている。

※2 [表2]にある「↑」は、「十分達成」に対する割合が、平成27年度[4月調査]と比較して上回っていることを示している。

※3 平成27年度[4月調査]の小6国語、小6算数、小6理科については、全国調査問題を県独自の基準で採点し、小6国語、小6算数は、A問題とB問題とを合わせて正答率を示している。

※4 平成27年度[4月調査]の小6国語、小6算数、小6理科については、全国調査問題を利用しているが、参考のために、県独自に到達基準を設定している。

2 各教科の概要・指導のポイント(詳細については、Ⅲ章「教科ごとの調査結果とその分析」を参照)

【国語】

《概要》

- ・ 小・中学校共に、全ての学年において、概ね良好であった。
- ・ 小・中学校共に、全ての学年において、言語についての知識・理解・技能の定着は、概ね良好であった。
- ・ 小学校では、内容・領域「書くこと」において、明確にするために、理由や事例を挙げて書くことや、明確に表現するために、文章の構成を考えて書くことには課題が見られた。
- ・ 中学校では、中学1年生において、記述式において課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 内容・領域「書くこと」の授業においては、相手意識、目的意識を明確にして書くことを学習目標として設定し、実態に応じて単元を構成する。また、単元の導入において、設定した学習目標や目標を達成するための学習方法などを共有し、単元の見通しをもたせる。
- ◎ 内容・領域「読むこと」や「話すこと・聞くこと」の授業においても、「書くこと」を効果的に取り入れた学習活動を設定するなどして、普段から児童生徒が書き慣れるようにする。

【社会】

《概要》

- ・ 小・中学校共に、全ての学年において、概ね良好であった。
- ・ 内容・領域別に見ると、小学校においては、小学5年生の「国土の様子」「食料生産の様子」以外は概ね良好であった。中でも、小学4年生の「地域の生産や販売」「地域社会の歴史」は良好であった。中学校の地理的分野においては、中学2年生の「世界の諸地域」「日本の地域構成」以外は、概ね良好であった。中でも、中学2年生の「世界と比べた日本の地域的特色」においては、良好であった。歴史的分野においては、全ての内容・領域で概ね良好であり、平成26年度[12月調査]から改善が見られた。
- ・ 評価の観点別に見ると、小・中学校共に観察・資料活用の技能(中学校は資料活用の技能)の定着は概ね良好であった。中でも、小学4年生は良好であった。しかし、社会的な思考・判断・表現において、小・中学校共に、社会的事象の意味などについて考えたことを、条件に合わせて説明することには課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 問題解決的な学習を取り入れた単元計画を行い、単元を通して知識、概念や技能を繰り返し活用させることを通して、学習問題(課題)の解決を図っていくことができるように指導を行う。指導のポイントは以下の3点である。
 - i 学習問題(課題)を設定すること。
 - ii 学習問題(課題)を解決するために、資料から読み取った情報を基に考えをもたせ、交流させること。
 - iii 調べて分かったことや考えたことを、自分の言葉で説明させたり、レポートにまとめさせたりすること。以上のポイントを取り入れた指導を行うことで、問題解決的な学習が充実し、思考力・判断力・表現力の高まり、知識、概念や技能の定着、指導内容の理解の深まりが期待できる。

【算数・数学】

《概要》

- ・ 小・中学校共に、全ての学年において、概ね良好であった。

- ・ 評価の観点別に見ると、数量や図形についての技能(中学校は数学的な技能)の定着については全ての学年において概ね良好であった。
- ・ 小学校では、示された情報を基に、知識や技能を実生活などの様々な場面において活用して考えることに課題が見られた。
- ・ 中学校では、事柄が成り立つ理由や求め方などを数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 示された情報を図や表などにまとめて整理したり、問題を解決するためにはどのような情報が必要なのかを考えたりするなど、問題場面を把握し、解決の見通しをもつ活動の充実を図る。
- ◎ 言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて問題を解決したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなど、数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動の充実を図る。

【理科】

《概要》

- ・ 小・中学校共に、全ての学年において、概ね良好であった。
- ・ 小・中学校共に、全ての学年において、自然の事物事象に関する知識・理解の定着は、概ね良好であった。
- ・ 小・中学校共に、評価の観点「科学的な思考・表現」において、観察・実験の結果を分析して解釈することには課題が見られた。
- ・ 小・中学校共に、学習した事項を使って、身の回りの事象について説明することに課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 授業の導入での事象提示を行い、問題意識をもたせることで、児童生徒が主体的に問題解決に取り組むことができるような学習指導を工夫する。
- ◎ 実験・観察の結果をレポートにまとめ、発表し合う学習活動の充実を図る。その際、観察・実験の結果と考察を区別し、考察では結果を根拠として、目的（学習問題）に対応する考えを表現することができるように指導する。
- ◎ 学習したことを基に事象の説明をしたり、学んだことと身の回りの事象を関連付けて説明したりする活動の充実を図る。

【英語】

《概要》

- ・ 全ての学年において、良好であった。
- ・ 全ての学年において、内容・領域「聞くこと」は良好であり、学習内容が十分習得されている。
- ・ 全ての学年において、一般動詞を含む疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書くことには課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けた指導の充実を図る。
- ◎ 関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど、英語の特質を理解させるための効果的な指導の工夫を行う。
- ◎ 読みの段階に応じた発問構成の工夫を行う。

3 地域別の状況

○ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐 城	佐賀市、多久市、小城市
三 神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵 西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤 津	鹿島市、嬉野市、太良町

(1) 国語

- 県内5地域の国語の各学年の教科全体正答率の対県比は[表3]のとおりで、依然として地域間の学力差が見られる状況にあり、4学年中2学年で、4月調査と比べて地域差が拡大している。
- 各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況は、5地域とも、小・中学校全ての学年で「おおむね達成」の基準に到達している。[グラフ2]

[表3] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の対県比(国語)

学年	実施時期	対県比(地域別正答率/県正答率)					地域差
		佐 城	三 神	東松浦	杵 西	藤 津	
小学4年生	H27[12月]	0.99	1.02	0.97	1.01	1.03	0.06
	H27[4月]	-	-	-	-	-	-
小学5年生	H27[12月]	1.00	1.00	0.95	1.03	1.03	縮 0.08
	H27[4月]	1.02	1.00	0.93	1.00	1.06	▲ 0.13
小学6年生	H27[12月]	1.00	1.01	0.97	1.01	1.01	縮 0.04
	H27[4月]	1.01	1.01	0.96	1.00	1.01	0.05
中学1年生	H27[12月]	1.01	1.02	0.97	0.99	0.98	拡 0.05
	H27[4月]	0.99	1.02	0.98	1.02	0.99	0.04
中学2年生	H27[12月]	1.00	1.03	0.94	1.01	1.01	拡 0.09
	H27[4月]	0.98	1.03	0.96	1.02	1.02	0.07

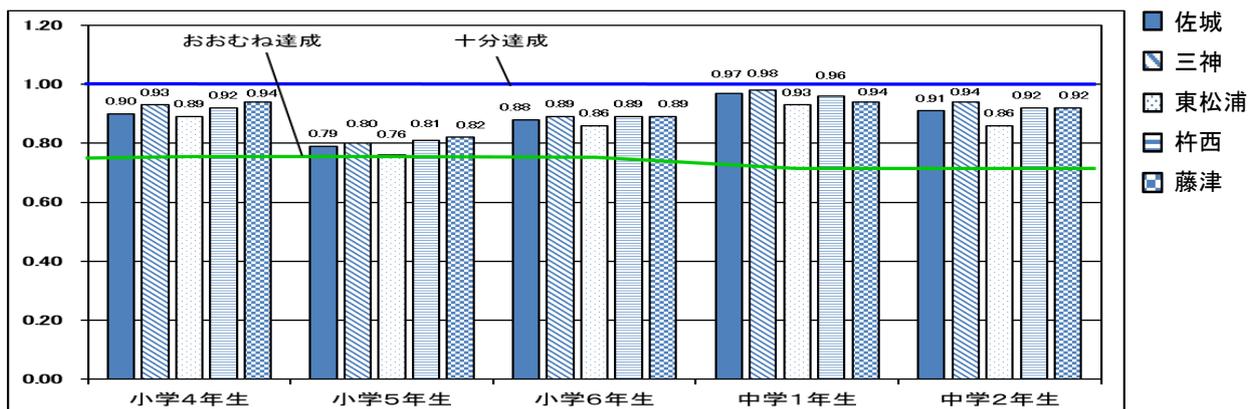
※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成27年度[4月調査]より地域差が拡大した教科を、「縮」は、縮小した教科を示す

[グラフ2] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況(国語)
(十分達成=1.00)



(2) 社会

- 県内5地域の社会の各学年の教科全体正答率の対県比は[表4]のとおりで、依然として地域間の学力差が見られる状況にあり、5学年中3学年で、昨年度と比べて地域差が拡大している。
- 各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況は、4学年で、5地域とも「おおむね達成」の基準に到達している。[グラフ3]

[表4] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の対県比(社会)

学年	実施時期	対県比(地域別正答率/県正答率)					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学4年生	H27[12月]	0.99	1.01	0.99	1.01	1.02	拡 0.03
	H26[12月]	1.00	1.00	0.99	1.01	0.99	0.02
小学5年生	H27[12月]	0.99	1.02	0.96	1.01	1.04	縮 0.08
	H26[12月]	0.99	1.02	0.97	1.01	1.01	0.05
小学6年生	H27[12月]	1.01	1.00	0.98	1.00	1.02	縮 0.04
	H26[12月]	0.99	1.04	0.99	0.98	0.98	0.06
中学1年生	H27[12月]	1.00	1.04	0.92	1.00	1.08	▲ 拡 0.16
	H26[12月]	1.02	1.02	0.92	1.01	0.99	▲ 0.10
中学2年生	H27[12月]	0.99	1.05	0.93	1.01	1.00	▲ 拡 0.12
	H26[12月]	1.02	1.00	0.93	1.02	1.00	0.09

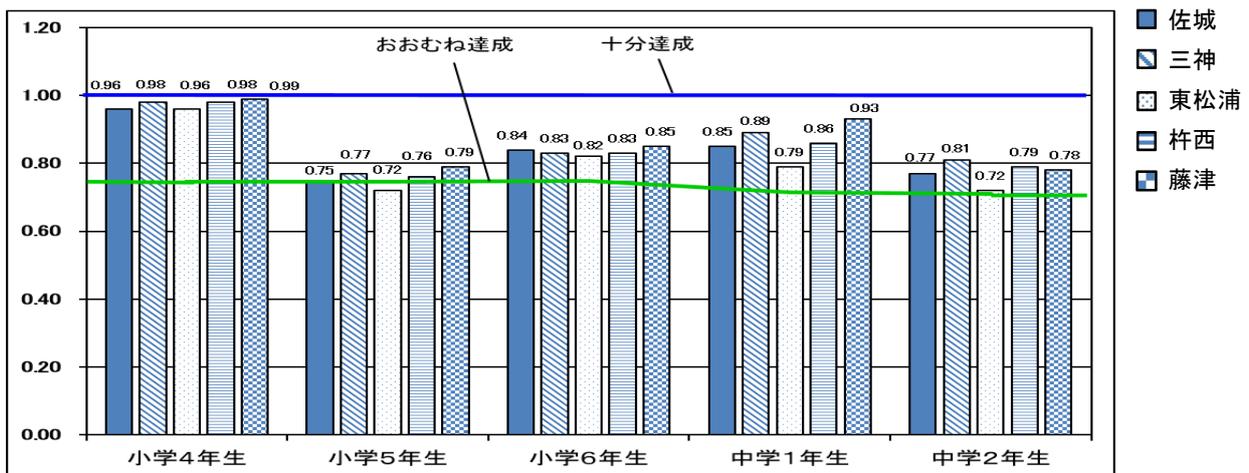
※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成26年度[12月調査]より地域差が拡大した教科を、「縮」は、縮小した教科を示す

[グラフ3] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況(社会)
(十分達成=1.00)



(3) 算数・数学

- 県内5地域の算数・数学の各学年の教科全体正答率の対県比は[表5]のとおりで、依然として地域間の学力差が見られる状況にあり、4学年中3学年で、4月調査と比べて地域差が拡大している。
- 各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況は、4学年で、5地域とも「おおむね達成」の基準に到達している。[グラフ4]

[表5] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の対県比(算数・数学)

学年	実施時期	対県比(地域別正答率/県正答率)					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学4年生	H27[12月]	0.99	1.01	0.98	1.01	1.04	0.06
	H27[4月]	-	-	-	-	-	-
小学5年生	H27[12月]	1.01	1.00	0.95	1.01	1.03	縮 0.08
	H27[4月]	1.00	1.02	0.96	1.01	1.05	0.09
小学6年生	H27[12月]	1.00	1.00	0.99	0.99	1.03	拡 0.04
	H27[4月]	0.99	1.01	0.98	1.01	1.00	0.03
中学1年生	H27[12月]	1.01	1.03	0.94	0.98	1.03	拡 0.09
	H27[4月]	1.00	1.03	0.99	0.99	0.98	0.05
中学2年生	H27[12月]	1.02	1.02	0.89	1.03	0.99	▲ 拡 0.14
	H27[4月]	1.02	1.03	0.91	1.02	0.98	▲ 0.12

※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

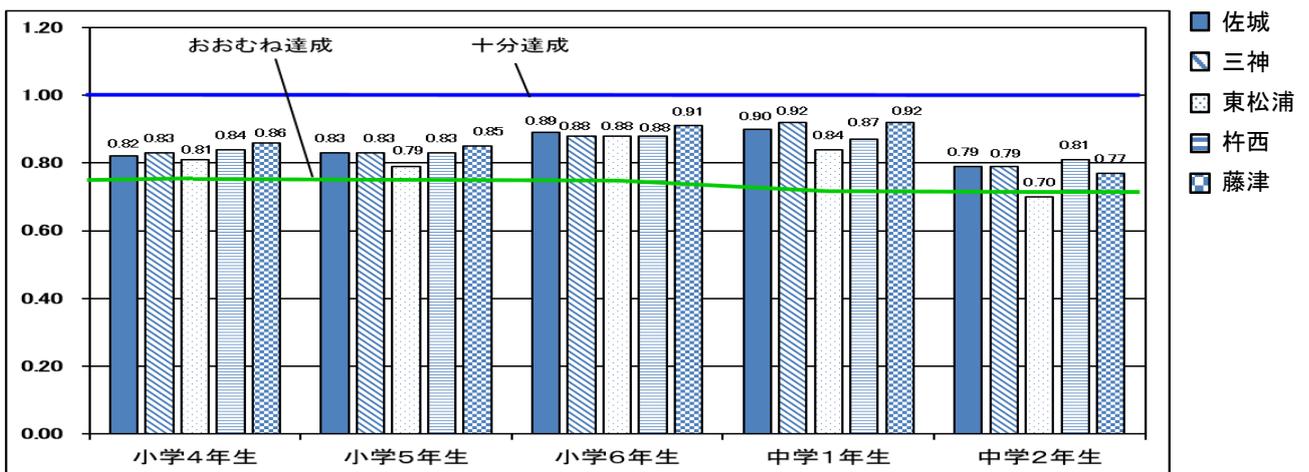
※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成27年度[4月調査]より地域差が拡大した教科を、「縮」は、縮小した教科を示す

[グラフ4] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況

(算数・数学) (十分達成=1.00)



(4) 理科

- 県内5地域の理科の各学年の教科全体正答率の対県比は[表6]のとおりで、依然として地域間の学力差が見られる状況にあり、5学年中2学年で、昨年度と比べて地域差が拡大している。
- 各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する状況は、4学年で、5地域とも「おおむね達成」の基準に到達している。[グラフ5]

[表6] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の対県比(理科)

学年	実施時期	対県比(地域別正答率/県正答率)					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学4年生	H27[12月]	0.98	1.01	0.99	1.01	1.04	拡 0.06
	H26[12月]	1.01	1.00	0.98	1.02	0.99	0.04
小学5年生	H27[12月]	1.00	1.02	0.95	1.01	1.02	0.07
	H26[12月]	1.01	1.02	0.95	1.01	0.99	0.07
小学6年生	H27[12月]	1.01	1.01	1.00	0.98	0.99	縮 0.03
	H27[4月]	1.01	1.01	0.97	1.01	0.97	0.04
中学1年生	H27[12月]	1.01	1.06	0.96	0.97	0.99	▲ 縮 0.10
	H26[12月]	0.98	1.04	0.92	1.03	1.06	▲ 0.14
中学2年生	H27[12月]	1.00	1.06	0.91	1.00	1.03	▲ 拡 0.15
	H26[12月]	1.02	0.98	0.94	1.05	0.98	▲ 0.11

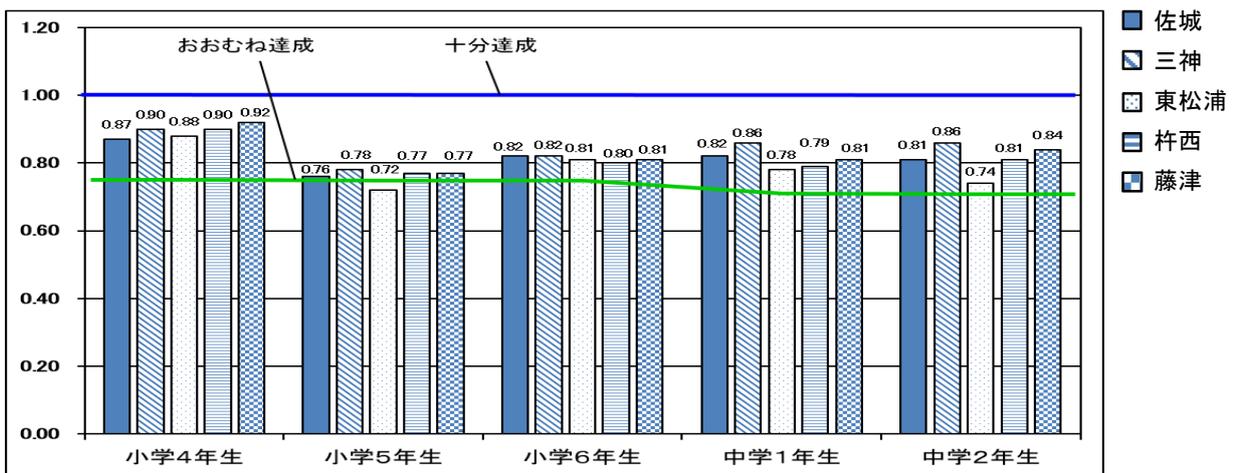
※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成26年度[12月調査]より地域差が拡大した教科を、「縮」は、縮小した教科を示す

[グラフ5] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況(理科)
(十分達成=1.00)



(5) 英語

- 県内5地域の英語の各学年の教科全体正答率の対県比は[表7]のとおりで、依然として地域間の学力差が見られる状況にあり、中学1・2年生ともに地域差が0.10以上である。
- 各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する状況は、5地域ともどちらの学年も「おおむね達成」の基準を上回り、中学1年生では、「十分達成」を上回った。[グラフ6]

[表7] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の対県比(英語)

学年	実施時期	対県比(地域別正答率/県正答率)					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
中学1年生	H27[12月]	1.00	1.05	0.95	0.98	1.00	▲ 縮 0.10
	H26[12月]	1.00	1.02	0.91	1.04	1.00	▲ 0.13
中学2年生	H27[12月]	0.99	1.04	0.90	1.04	1.06	▲ 拡 0.16
	H26[12月]	1.03	1.01	0.90	1.03	1.00	▲ 0.13

※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成26年度[12月調査]より地域差が拡大した教科を、「縮」は、縮小した教科を示す

[グラフ6] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況(英語)
(十分達成=1.00)

